

コンプレックス滋賀

第24号

連合滋賀・高退協会報

発行責任者:吉川浩次
編集責任者:山崎長栄

大津市松本2-10-6
電話:077-523-0500

ご挨拶

連合滋賀高退協会長

吉川 浩次



明けましておめでとうございませう。連合滋賀高退協会の会員の皆様におかれましては、ご家族ご一同様と共によき新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は特に参議院選挙において民主党が大勝しました。参議院選挙に勝利した政治的意味がわれわれの生活に直結していることをあらためて考えさせられます。それは高齢者の医療負担増を検討してきた自民、公明両党の与党プロジェクトチームが、今年四月から予定していた七〇〇七四歳の窓口負担割合の二割から三割への引き上げを一年間凍結する。後期高齢者医療制度では、これまで保険料を支払う必要のなかった七五歳以上の保険負担が最初の半年間はゼロ、次の半年間が一割、〇九年度は半額という段階的な減免措置がとられるというものであります。

これら高齢者の医療費負担増は、政府・与党が〇六年医療制度改革で決めたものであるが、参議院選挙で大敗を受けた結果、凍結論が浮上し、解散総選挙の思惑で失われた支持票を取り戻したいためのもので、われわれが求めている制度の根幹にふれる改革とは程遠く凍結期間が過ぎれば改悪法どおりの内容で施行されるものであります。

また、自民党の財政改革研究会は昨年十一月、消費税率を二〇一〇年代半ばに一〇％程度引き上げること掲げた「中間とりまとめ」を公表しました。ただ増税論議の行き過ぎを懸念した福田首相や党執行部に配慮し、税率引き上げの時期にはふれていないがその方向にあることには間違いない事実であります。

私たちが取り組んできた対政府要求である①年金制度改革②医療保険制度改革③税制改革を求める一五〇万署名活動も終盤を迎え、三月早々には政府に提出のうえ民主党の協力を得て論議が始まる予定で、これの実現に向けた全国規模の国会要請行動が計画されています。滋賀高退協としても中央・近畿高退会の方針にそって活動を展開します。

連合滋賀高退協は来る二月二六日に平成二〇年度定例総会を開催し、活動計画を決めますが例年の運動方針に加え、組織間や会員間の交流をさらに深めるためのスポーツ面での交流も考えております。今年も何かと課題の多い年になりそうであり、会員各位の連合滋賀高退協の活動に引き続き力強いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とします。

ご挨拶

連合滋賀会長

中村 憲市



「二〇〇八」新年あけましておめでとうございませう。十二支の最初である今年こそ、安心・安全・希望の見える一年でありたいとの想いで、健やかに新年を迎えられたことと存じます。日頃より、現退一致の活動にご尽力頂いておること、感謝と敬意を表します。

昨年は、統一地方選挙、参議院選挙とも、貴重な一票の積み重ねで、大きな成果を頂きました。県議会におきましては議長、参議院におきましては滋賀の二議席確保を得、改めて高退協各位の皆様にお礼申し上げます。従来国会運営とは違い、緊張感ある国政運営のなかで成果が得られたのは確かであると考えております。しかし、小泉・安倍政権のツケが今なお、政治・経済・社会のあらゆる面で、歪み、格差拡大、税の無駄遣い、年金・介護問題、医療問題等々多くの改正・改善が求められ、高齢者福祉・社会保障拡充など、大きな課題が山積をしております。

原油高騰、年金問題、そして新年早々の株価下落等、国民生活に直結する重要課題山積の通常国会がスタートしましたが、福田政権も残念ながらリーダーシップ不足で、国民の視線に立っていているとは言い難い状況であります。「やはり政権交代しかない」という思いを一層強めております。特に年金照会問題三月末、自動車関係諸税の暫定税率三月末、そして、衆議院三分の二の再議決等の流動的国会情勢を踏まえ、解散総選挙を意識して「一区・川端達夫」「二区・田島一成」「三区・三日月大造」「四区・奥村展三」全員の勝利に向けていかなる事態にも対応し得る体制をつくる必要があります。

また、この四月から施行されます高齢者医療保険制度見直しによる「六五〇七四歳までの前期高齢者医療制度」「七五歳以上の後期高齢者医療制度」は改悪であり極めて問題が多いとし、医療制度の抜本改革が急務であると認識してまいります。

早々の大津市長選挙にも、大きなお力添えを頂きましたが結果が出せなかったこととお詫び申し上げますと共に、各市長・町長・町議選挙でのご協力をお願いいたします。社会的公正な配分を求め二〇〇八春季闘争もスタートし、「経済が活性化されない」「消費が伸びない」状況であります。要素は、一人あたり賃金の低下傾向に歯止めがかかっていないこととあり、それも意識しながら、格差是正・非正規労働者の底上げ等、全労働者の処遇改善に取り組むこととしてまいります。

私自身、「ねじれ」と言う言葉があまり好きではございません。高木連合会長いわく、「ねじれ」が正常でないならば、民主党が議席を増やし「ねじれ」を解消する以外にない。私もその通りであると思っております。歴史的な政治改革の年にする大きなチャンス、最後のチャンスという気概をもって、皆さんと共に見極める年に何ともしなければなりません。

健康第一、本年もよろしくお願ひ致します。



おおさかATCグリーンエコプラザを見学して

関電労組OB会

伊藤 茂

昨年八月二十八日に連合近畿地方ブロック高齢・退職者会第十四回総会が執り行われ、当日の午前中にエコプラザ施設（大阪府住之江区南港）の見学会が開催された。当日の参加者は、近畿地方ブロック二十数名（滋賀四名）で、地球温暖化防止・リサイクル社会・ゴミの減量・「もったいない運動」等環境問題について、総面積四千五百平方メートルと広い総合展示場で、エコマークゾーン・エコビジネス支援ゾーン等七つのゾーンで多くの企業の取り組み内容紹介や、その製品等の展示が行われ、見学は専任ガイドにより詳細な説明を受けた。

そこで、リサイクル等、日頃私たちの身近なものについて紹介します。

まず最初にペットボトルは回収されたものを再生工場で、「異物除去・粉碎・ラベル除去・洗浄・フレーク」の行程で再生されて、ペットボトル・カーペット・衣料品等リサイクルされている。次に、空き缶は、スチール缶とアルミ缶に分けて再生工場で建築用の鋼材・アルミ製品にリサイクルされているし、空きびんは、再生びんと再生工場での他カレットに空きびん・舗装材にリサイクルされている。

又、乾電池・蛍光灯管は再生工場で「解体・処理」の工程で、鉄の原料や断熱材等にリサイクルされている。牛乳紙パック等は製紙工場でトイレットペーパー・ティッシュペーパーにリサイクルされている。この様に多くの身近な生活品に活用されておりませんが、まだまだその回収率（全国・平成十七年度実績）は、ペットボトル約六六％・牛乳紙パックでは約二六％と低い現状である。

こう言った内容が、各ゾーンで展示パネル等で判り易く、リサイクルの製品が多く紹介されていて、リサイクル活動のキーワードの発生抑制・再利用・再生利用の取り組みの必要性を痛感した。私達の日常生活に関わる有意義な見学会だった。



専任ガイド（右側）の説明を聞く参加者

連合近畿07ハイキング「神戸震災ウォーク・HAT神戸と神戸ビエンナーレ」を終えて

自治労滋賀県本部

中村 京子

二〇〇七年十月二四日、我々連合近畿のメンバーは連合近畿07ハイキング「神戸震災ウォーク・HAT神戸と神戸ビエンナーレ」に参加しました。天候にも恵まれたこの日、まずスタート地点の王子競技場前で行われました。浜上力氏（兵庫高齢・退職者連合会長）の開会の辞、岡副恒夫氏（近畿ブロック高齢・退職者連絡会代

表理事）より主催者あいさつ、そして北条勝利氏（連合兵庫会長）、島田輝男氏（近畿労働金庫兵庫本部長）の来賓あいさつをいただき、八十歳以上の参加者紹介と記念品の贈呈式も行われました。その後、午前十時半に出発し、神戸市を巡りました。市には県立・市立美術館や神戸海洋博物館（カワサキワールド）など、いくつもの素晴らしい見学ポイントがあり、各拠点には主催者側の方々が我々が道に迷わないよう、見守ってくださいました。

私が訪れた中で特に印象に残っているのは「人と防災未来センター」です。今回の神戸震災ウォークでは、その名が示すとおり、阪神淡路大震災の様子やその後の市の復興について詳しく学ぶ機会を得ました。このセンターでは展示を通して当時の恐ろしさや悲しさを再認識することが出来ます。神戸市があの震災から見事に復興を遂げたことは何よりも感慨深く、心を強く打たれました。

神戸市役所一号館の無料展望台（二四階）にも上がり、美しい山と海の神戸市の絶景を堪能しました。また、南京町の中華街を少し覗いたりもしました。いただいた地図を手に、メンバーの方々と楽しく語りながら、景色を楽しみながら、スタート地点を出発し、ゴール地点にお昼過ぎに到着するまで、神戸の街について学びながら歩くのにはちょうど良い距離でした。楽しく、健康にも良く、その上、街の歴史や出来事について学べる、このような機会を得たことは大変深い喜びであり、今後の教訓となることと思います。ありがとうございました。



手術を受けた病歴をお話ししましょう

新日本電気乙酉会

井上 賢三

民主党の山本議員が、自分がガンであることを発表して法案成立を達成した。その勇気と実行力に多くの人たちが共感し拍手を送った。しかし、山本議員はつい先日不帰の客となられたことはまだ記憶に新しい。

私は平成十七年八月、狭心症で経皮的冠動脈血行再建手術を受けた。平たく言えば心臓の冠動脈にステント（人工の管）を留置して血行を回復する手術のことである。このことが周囲に知れることになって、驚いたことに同じ病気の体験者から術後の生活態度（健康管理）のことや、新しい治療法のことなどを教えて頂き、生きる意欲を強く持つことが出来た。

この体験から私も、自分の発病、手術、術後の生活などについて、語りた気持ちが強くなっている。この狭心症の手術前、六〇歳の半ばを過ぎた平成十年十月、胆石症で胆嚢摘出手術を受けた。次いで、平成十四年六月前立腺肥大症で経尿道的前立腺レーザー焼灼切除術を受けた。

更に、平成十七年十一月、心臓の冠動脈にステント留置の再手術を受けている。これらの病歴は、人前で話して誉められるようなことではないが、同病の方やまだ発症してはいないが将来が心配だ、と思っておられる方に、私の体験が少しでもお役に立つのであれば、と思い「手術した病歴のことを出前します」とお手伝いの意志を記した次第である。